

shaigaku

# ひろば

2023年 No.5

## 特集

### 夜間部の魅力 ～リハビリ助手編～



## Contents

- 特集 夜間部の魅力 ～リハビリ助手編～  
リハビリ助手学生 座談会・アンケート  
50周年記念行事

- |    |           |     |
|----|-----------|-----|
| 3p | 講師に聞く！    | 9p  |
|    | 教員紹介      | 12p |
| 8p | クラスメートの横顔 | 14p |

学校法人 日本リハビリテーション学舎

専門学校 社会医学技術学院

# 実践しながら学ぶ、夜間部

## 専門学校 社会医学技術学院 学院長 浅沼 辰志

理学療法も作業療法も人と向き合う仕事である。とりわけ、身体や精神に障がいがあり、生活に困難さのある方々を支援することがその仕事になる。資格制度が出来て早60年となり、有資格者数が増えている現在でも、超高齢社会にあってはそれらの職種に対するニーズは非常に高い。

本校は1973年に開校した。創立者は、資格がない、あるいは他の資格をよりどころに医療機関で助手として働いていた人たちに資格取得の道を開こうと、理学療法の夜間部のコースを開設した。1980年、夜間部の作業療法コースが開設され、さらに社会の要請に応えるために養成定員の拡大を図る目的で昼間部の理学療法コースが1983年に開設された。



1985年から教員として働いていた私は、臨床現場から実践力・即戦力の社医学という評価をいただく一方で、現場慣れしているというマイナスのイメージで受け止められかねない評価を頂戴することもあった。しかし卒業生は、臨床現場だけでなく教育や行政、また近年は開業するなど各所で活躍し、そのような評価は払拭された。

昨今、リハビリの業界でも専門職大学が設立され、実践を重んじる教育が大学教育レベルでスタートしている。これは本校における開校時点の考え方とは異なるものの、内容的には本校の教育スタイルとほとんど同じと考えている。創立者の考えた「実践しながら学ぶ」スタイルは、専門職大学のできる50年も前から行われていたのである。

今回、座談会(3頁ご参照)で学生が述べているように、座学が実践の中で生きる経験はかけがえのないものだ。有資格者となった時とは比べようもないくらい限られた経験かもしれないが、専門職としていかに人と向き合うべきかを学ぶ、良い機会になることは間違いない。

コロナ禍により、現場で学ぶ機会を制限された学生は少なくない。しかし夜間部の学生たちは、現場で働きながら知識や技術ばかりでなく、他では得られない大切なことを学んでいる。



### 表紙について

今号の表紙は夜の校舎とともに、特集企画(3頁～)にご協力いただいた学生の皆さんのがんばりの様子を写真に収めました。勤務先施設の皆さんにもご協力いただき、ありがとうございました。

# 特集 夜間部の魅力 ~リハビリ助手編~



本校の夜間部の学生は、8割近くがリハビリ助手のアルバイトをしています(7頁学生アンケートより)。今号では、勉強と仕事の両立、やりがいなど、リハビリ助手をしながら学んでいる学生の本音をお届けします！

## 学校と医療・介護の現場で同時に学べる！

——最初に皆さんのお勤めしている施設と仕事内容を教えてください。

**刀祢** 脳神経疾患に特化した専門病院で働いています。仕事は、リハビリ室から病棟への患者さんの送迎や事務作業などを中心に、理学療法士のサポートを行っています。コロナ禍の環境下、使用した物品の消毒・除菌なども担当業務です。

**城戸** 私はデイケア(通所リハビリテーション)で働いていて、利用者さんごとの運動プログラムの進行確認や入浴介助、到着時のお迎えなどを行っています。

**國分** 私の勤めているクリニックでは理学療法と運動療法が分かれています。前者は理学療法士が、後者は基本的にアスレティックトレーナー※が担当しています。私はアスレティックトレーナーの資格を持っているので、リハビリ助手というより、理学療法士の指示のもと、運動療法の指導をしたり、診察室で診療の補助を行ったりしています。

※アスレティックトレーナー：アスリートのトレーニングやリハビリのメニュー作成、けがをした際の処置など、アスリートの健康サポート全般に関わる。

——仕事と学業を両立していることでのメリットはありますか。

**國分** 運動指導など、学校で学んだことがすぐに現場で生かせることは大きいですね。ほかにも、診察室での医師の説明や画像所見の見方など、授業に出てくることが多くあり、理解が深まっていく実感があります。

**城戸** 私の場合、利用者さんの中に車いすの方がいるので、職場の理学療法士からマシーンやエルゴメーター(自転車こぎ)への移乗、ベッドでの起き上がりの方法を教えてもらいました。歩行介助は最初のころはうまくできなかったので、具体的に教わったことで非常に勉強になりました。

**刀祢** 学校では学べないことを仕事先で学べるという



理学療法学科 夜間部 2年 刀祢匠さん（東京都立神経病院勤務）

こともあります。例えば、コミュニケーションの取り方。患者さんの中には病気を患ったことでつらい気持ちを抱えている方もおり、気持ちに寄り添うことが重要です。そうしたホスピタリティの部分を理学療法士になる前から学べ、経験できることは、実習や臨床現場に出てから役に立つと感じています。

## 両立のポイントはメリハリのある生活

——逆に学校と仕事の両立てで、苦労している点があれば教えてください。

**刀祢** 日中は働いているため、どうしても勉強をするのは夜になってしまいます。時間が足りないと感じるときもあり、両立はなかなかハードです。

**城戸** リハビリ助手は体力を使う仕事で、忙しい日は休みなく走り回っている感じです。入浴介助が多い日などは、授業が終わったあとは疲れて何もできないことも。やはり勉強時間の確保が悩みの種です。

**國分** 皆さんと同じで、勤務時間が長いので勉強時間の確保が難しいです。移動時間に勉強をしようと思っても、疲れているせいか思うように進まないこともあります。

——両立していくうえで、何か工夫していることはありますか。

**國分** 限られた時間の中に多くのことを詰め込まなければと思ってしまいがちですが、それはあまりおすすめできません。週1回は体を休めるなど、メリハリをもって生活していくほうが効率的だと思います。

**刀祢** まずは生活に慣れること、プラスして楽しむ気持ちも大切だと思います。あれもやらなければ、これもやらなければと考えていると、いろいろなことがつらくなってしまいます。

——忙しい中でも心身を休める時間があったほうが

いいということですね。

**城戸** 仕事が楽しければ割と両立も苦にならないので、自分に合った仕事を見つけることも大事だと思います。私の場合は、利用者さんが気さくに話しかけてくれるので、働いていて楽しく感じられることが大きいです。

## 患者、利用者との関係性が視野を広げる

——実際の医療や介護の現場で、患者さん、利用者さんから学んだことはありますか。

**國分** 社会経験や人生観は患者さんのほうが豊富で深いので、さまざまな機会を通じて学ぶことが多いです。自分以外の別の視点、考え方を知ることで、より広い視野で物事を捉えられるようになったのは、自分自身の成長につながっていると感じています。

**城戸** 歩行介助がなかなかうまくできなかったのですが、何度もやることになっても、嫌な顔をせずに応じてくれる利用者さんがいてくれたおかげで、実践の中で学べました。移乗でも練習に何度も付きあってくれた利用者さんには感謝しかありません。

**刀祢** 私の場合はコミュニケーションスキルを学びました。勤務を始めた当初は、自信がなくておどおどしていたのですが、コミュニケーション上手な患者さんが、自分に冗談を言ってくれたり、他の患者さんにも明るく接していたりするのを見ることで、接し方ひとつで周囲が明るくなることを学ぶことができました。その方をお手本にして、患者さんとのコミュニケーションも進歩したと思います。

——逆に、自分が患者さんへ貢献していると思えることはありますか。

**國分** 患者さんと理学療法士の会話では、けがや身体のことが多くなりますが、私たちとは日常の何気な



作業療法学科 夜間部3年 城戸八千代さん（デイケアこきん勤務）

い話や気軽な雑談ができていると思います。患者さんにとってホッとする時間になっていればうれしいです。

**城戸** 高齢の利用者さんが多いので、年齢差から孫と祖父母のような関係になっています。すごく気にかけていただけるので、病気のことだけでなく、日常的な会話もたくさんしています。オープンな雰囲気の職場で、利用者が使わなくなった洋服や傘など持ってきてくれたりすることもあります。

**刀祢** 私はいつも笑顔で接することを心掛けています。病気に苦しむ患者さんに、共感だけでなく、笑顔を向けることで少しでも痛みを忘れてもらえることができればと思っています。患者さんとの関係性もよくなるし、距離感も縮まる気がします。

——仕事中に特にうれしかった体験などはありますか。

**城戸** 「いつもありがとう」と言ってもらったり、入浴のあとに「気持ちがよかったです」と言われたりすると、率直にうれしさを感じます。

**刀祢** 勤務先では入退院を繰り返す患者さんが多いのですが、自分の名前を覚えていてくれることが、日々の励みになっています。

**國分** アスレティックトレーナーとして運動指導を行っていますが、自分が考えた指導で患者さんから「痛みが軽くなった」と言われたときは役に立ったという実感があります。すぐに効果を感じてもらったことはその後の継続につながりますし、自分の考えが正しかったと思えることもモチベーションになります。

## 授業で学んだことがリアルに結び付く

——学校の授業が仕事に役立ったことはありますか。



理学療法学科 夜間部4年 國分佳奈さん（山手クリニック勤務）

**城戸** 初めて歩行介助の練習した前日に、学校で立ち上がりの動作分析を学びました。足は膝より10cm後ろなど、具体的なポイントが分かったので、すぐに現場で役立つことができました。

**國分** 運動学の授業で学んだ「正常」を理解できたことで、現場で「異常」を正しく把握することができました。

**刀祢** 授業でMMT(徒手筋力テスト)とROM(関節可動域)の測定を行ったのですが、そのときはうまくできませんでした。その後、現場の理学療法士が行っているのを見て、その方法を参考にしたらうまく測定することができました。授業で学ぶことが現場のリアルな仕事に結び付いていると感じた瞬間でした。

## 一日のスケジュール(平日)

夜間部授業時間 18時～21時10分

### 刀祢さん

0時	6時20分	7時半	9時半	16時15分	17時	17時半	22時半	24時
睡 眠	朝 の 支 度	通 勤		勤 務	病 院 で 勉 強	通 学	学 校	通 学

### 城戸さん

6時半	7時半	8時45分	15時15分	17時50分	22時半2時
睡 眠	朝 の 支 度	通 勤	勤 務	休 憩  仮 眠	学 校

### 國分さん

0時	5時半	6時半	8時半	16時半	17時半	22時半	24時
睡 眠	朝 の 支 度	通 勤	勤 務	通 学	学 校	通 学	趣 味 勉 強



司会進行 理学療法学科 小宮山一樹 教員

——現場で具体的に教わることはありますか。

**國分** 授業では問診項目はすべての項目を聞くという形で教わりますが、実際の現場では問診の時間が限られているため、優先順位をつけて聞くということを学びました。

**城戸** 立ち上がりや起き上がり、歩行介助、移乗などのポイントを私が車いすの利用者さんになって説明してもらったことがあります。この人にはこういう介助方法が向いているなどといったことを分かりやすく示してもらいました。

**刀祢** 想像力と洞察力を学びました。車いすの患者さんの中には、ずっと座っていることができずにいきなり立ち上がってしまう方がいるのですが、その直前に前かがみになっていることが多いことを教わりました。立つ予兆を感じる想像力、予兆を見逃さない洞察力が大事と言われたことが、印象に残っています。

——最後に夜間部の魅力について教えてください。

**國分** 級友には人生経験の豊富な方が多いので、自分になかった考え方や発想を知る機会があります。日々の意見交換などから、一人の人間として成長できるプラス面が大きいです。

**刀祢** 年齢層が幅広いで、自分にはない考え方触れられ、視野を広げることができる環境が魅力です。仕事との両立て、1日の活動時間が長くなることは大変ですが、それ以上に楽しいことやメリットが多いのも確かだと思います。

**城戸** それぞれに個性的で、さまざまな年代の人が集まっていることが刺激になっています。例えば、「義肢装具士の資格を持つ人がいるのですが、「義肢装具学」の授業ではみんながその人に話を聞きにいらっしゃいます。ほかにも、介護の現場で働いてい

る人もいれば、知的障害者施設で働いている人もいる。自分の職場の特徴や、それぞれの現場の情報を共有できることは、夜間部ならではのメリットだと感じています。

——夜間部の学生はそうした情報共有を常にしているのですね。本日はありがとうございました。

収録日 2022年11月22日

### 座談会出席者の勤務先



城戸八千代さんと  
デイケアこきんの皆さん



刀祢匠さんと東京都立神経病院  
の島田英則先生(社医学卒業生)

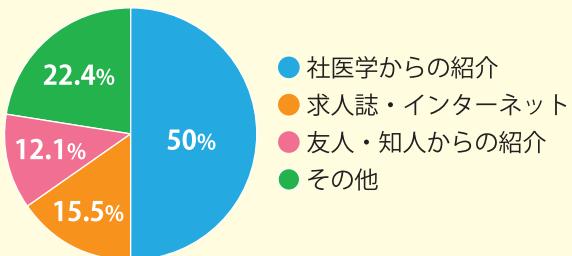


國分佳奈さんと山手クリニック  
の皆さん(社医学卒業生)

# リハビリ助手 学生アンケート

当学夜間部のリハビリ助手を行っている学生にいろいろ聞いてみました！

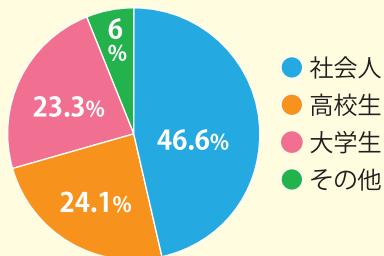
リハビリ助手の仕事を見つけたきっかけは？  
116件の回答



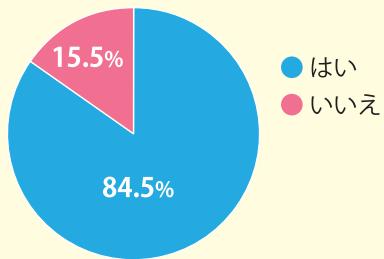
勤務先の施設形態は？  
116件の回答



入学前は何をしていましたか？  
116件の回答



学校の勉強とリハビリ助手の仕事が結び付いた経験はありますか？  
116件の回答



## 学校の勉強とリハビリ助手の仕事は、具体的にどのように結びつきましたか？

- 飛び交う会話で検査名や用語を覚えた。
- 生理学や解剖学の授業で学んだことが患者さんの症状の理解に結び付いた。
- 授業で習った検査や治療を、実際の患者さんに対して行っている場面を見ることができる。また、検査や治療のお手伝いをさせてもらうことができる。
- リハビリテーション処方がされる多くの患者さんと出会い、知ることができるので、起りやすい疾患や症状が出現しやすい部位などを自然と覚えるようになった。
- 1年の4月から今の老人保健施設でリハビリ助手として働いています。学年が進むにつれて、徐々に利用者さんの体に触れさせてもらえる機会が増えました。授業で学んだことを実際に利用者さんに行ってみて、痛みが軽減したと言われたこともあります。利用者さんの嬉しそうな笑顔を見ることができた時は、まさに「学校で学んだことがそのまま現場で使える」ということを嬉しさをもって実感しました。
- 車いすの管理をする仕事をしているので、車いすの知識が自然に身についた。
- 現場に出て初めて知った症状があり、勉強への意欲が高まった。
- 患者さんの気持ち(けがや痛みに対する受け止め方)など、教科書では学びきれないことに対して、具体的なイメージを持つことができた。
- リハビリ助手の仕事中、その時に持ち合わせている知識で患者さんの症状の原因を考えてみる。その後、授業で新たな知識を学んだ際に、「あの時の患者さんは、この〇〇の理由であのようない状況だったのか」と実際の症例と知識を結び付けて理解することができた。

学校で学んだ検査や治療が勤務先の医療・介護の現場で実際に見ることができますね。

## リハビリ助手のお勧めポイントを教えてください。

- 自分が**将来セラピストになつたら**、ということを常に考える事ができ勉強に対するモチベーションにもつながる。
- 資格を取るための知識だけではなく**患者さんのためにどうするか**を考えられるセラピストになれると思う。
- 学業との両立でとても大変な部分はあるが、患者さんから**「頑張ってね」と励ましのお言葉**をいただける点はとても励みになる。
- 何といっても**患者さんや病院等の環境に慣れることができるので**、実習に行くとまず直面する「病院・施設という環境に慣れる」「患者さんとの接し方に慣れる」ということがすでにクリアできているので心理的にとても有利です。
- 患者さんとコミュニケーションをとる機会が多い**ので、どんな話し方（声の大きさやスピード）が伝わりやすいのか、身を持って勉強できています。実習の時に「患者さんとの接し方が慣れてるね」と褒められた時は、とても嬉しかったですしリハビリ助手の仕事をしていて良かったなと思いました。知識面だけではなく、**マナーなども身につく**ので、これから医療従事者になるためにもリハビリ助手はオススメです。
- 社医学の先輩方が親身になって色々な相談にのってくれた。
- 理学療法士・作業療法士としてどのような立ち振る舞いが適切であるか、どのような仕事内容を行っているのかを在学中に知ることができる。

就職前に現場の雰囲気に慣れる  
ことができる安心ですね。

調査方法：夜間部全学生に2022年11月、WEBアンケートを実施（回答率60%）  
※回答の中の用語等を統一しています



専門学校社会医学技術学院は  
本年創立50周年を迎えます



50周年

本校は、わが国初の夜間部の理学療法士養成施設として1973年に開設されました。1980年に作業療法学科夜間部、さらに1983年には理学療法学科昼間部を開設し、これまで約4,000名の理学療法士、作業療法士を社会に送り出しています。

本年、創立50周年の節目を迎えるにあたり、これまで支えていただいた皆様に感謝するとともに、100年への第一歩となる事業として、50周年記念式典を7月16日(日)に開催いたします。

50周年記念WEBサイトで情報を随時更新していくので、ぜひご覧ください。



開校時の校舎（スポーツ会館）



1973年に行われた第1回入学式



1980年、移転当時の小金井校舎

# 「講師に聞く！ 社医学ってどうですか」

社医学は、教員だけでなく経験豊富な講師陣が実践的で魅力あふれる授業を行っています。講師を始められたきっかけや学生の印象、授業方針などについて、長年にわたって学生を教えてこられた先生方に、お話を伺いました。（記事内の情報は2023年1月時点のものです）

## 多様性と自立性が社医学の伝統



「生理学」ご担当  
医学博士  
広瀬 智道先生

私が社医学の授業に携わって約40年になります。副学院長だった下河辺征平先生の勉強会に参加したのがきっかけでした。リハビリという言葉がまだメジャーではなかった頃で、下河辺先生の「介護を家族だけでなく、組織として支援できるようにしないといけない」というメッセージがとても印象的でした。

当時の学生は、医療や福祉の現場で働きながら学ばれる方が多かったように思います。授業の雰囲気はさながら大学院の勉強会のようでした。

その頃から社医学の伝統には多様性と自立性といった考え方方が息づいていたと感じています。最近では高校を卒業後に入学する学生も増えていますが、連綿と受け継がれてきた伝統の影響からか、入学後の取り組み姿勢などは他校とは違った伸びしろがあるように思います。

授業にあたっては、学生が医学を身近に感じてもらえるよう、国家試験に基づく内容だけでなく、最近のニュースや話題などを交えて進める工夫をしています。授業を通じて、学習が学生にとっての成功体験につながることを願っています。

この先、理学療法士・作業療法士が日本の現行

の保険制度の中で働くことには限界があると考えています。他方、欧米では理学療法士・作業療法士が開業する例が少なくありません。理学療法士は退院後の慢性期の治療のプロフェッショナルとして、作業療法士は小学校などの児童発達支援のプロフェッショナルとして、それぞれ活躍しています。こうした働き方は、日本でも十分実現が可能だと思います。

とはいっても、いきなり開業するのはハードルが高いため、まずは病院や施設で働きながら、基本的な技術や知識を研さんすることが必要です。知識や技術をしっかりと提供できることが、その後のキャリアの選択肢の幅を広げると考えています。加えて、社医学の伝統である自立性や多様性が重要であることはいうまでもありません。

これから理学療法・作業療法を目指そうとされている方の中には、目の前の課題が大変だったり、何にどう取り組めばよいかが分からなかったりする方もいるかもしれません。しかし、日々の中で、自分が将来どう働きたいかについての「夢」を持つことが、きっと明日につながっていくのではないかと思います（談）。



授業中の広瀬先生



インタビュー木下教員と

## 多くの経験から学ぶ姿勢を伝えたい



「解剖学」ご担当  
医学博士  
秋元 義弘先生

**社** 医学の授業を担当してから35年が経ちました。平野寛先生（杏林大学医学部解剖学第二講座教授）の推薦によりお引き受けさせていただいたのがきっかけです。

35年間の中で一番印象に残っていることは、最初に教壇に立ったときの授業です。授業を行うこと自体初めてで、まだ20代で年上の学生が多くいる中、とても緊張したことを覚えています。授業の後、居酒屋で学生とお酒を酌み交わしながら情報交換したこと思い出深いです。他愛のない話だけでなく、授業方法の改善点などを学生から直接聞くことができ、授業に生かすことができました。

学生全体の印象としては、授業後に積極的に質問しにくることや質問に対する受け答えの様子などから、目的をしっかりと持った真面目で素直な学生が多いことです。どの学生も、挨拶がしっかりとできることも社医学の学生の強みであると思います。

また、さまざまな年齢の学生が在籍していることで、多様な価値観に触れながら、一人ひとりがいきいきと楽しく学べる雰囲気があります。社会の方も大勢いるので、その方たちが率先してリーダー

シップをとり、クラスをまとめてくれています。

**社** 医学には、社会的にもいろいろなバックグラウンドを持った学生さんがいます。そのため、授業ではどの学生にもできるだけ分かりやすい内容であることを心掛けています。私は夜間部を担当していますが、ほとんどの人は昼間働いているので、できるだけ飽きずに興味を持つてもらえるように工夫をしています。

例えば、骨標本を実際に触れながらスケッチを行ってもらったり、上肢・下肢の筋模型を使用して筋肉の位置関係の理解を促したりしています。

教科書や板書、スライドなどといった2次元のものではなく、3次元の教材を使うことで、人体を立体的に理解してもらうという狙いです。

**私** 自身は大学生の頃、免疫組織化学についての研究をしていましたが、研究の実験で失敗をすることも多くありました。そのときに、成功した実験だけでなく失敗した実験からも多くを学ぶことができる事を知りました。これは職に就いてからどのような場面、どのような学びにもあてはまります。失敗を大切にする姿勢は今も心に刻まれており、学生にもぜひ伝えていきたいと考えています（談）。



授業中の秋元先生



インタビュアー小宮山教員と

## 授業では自己理解を促すワークを重視



「臨床心理学」ご担当  
臨床心理士  
杉村 夕先生

外部講師として携わって25年になります。大学院を修了する際に、社医学で臨床心理学の授業を担当していた同級生の後任として声を掛けていただいたことがきっかけでした。

社医学の学生の印象としては、夜間部で仕事をしながら学ばれている方が多いため、真面目で、がんばり屋が多いと感じます。関心を持って積極的に授業を受けている方が多く、同じく授業を受け持っていた他の専門学校の学生とは異なる印象です。

また、学校自体の雰囲気として、先生方、事務の方々が手厚くサポートしてくださるので、安心して授業を進めることができます。

実際の授業では90分間講義のみでは集中力が続かないため、いろいろな工夫をしています。例えば、性格テストや簡単なワークをやってもらったり、事例紹介や私が経験したことを話したりするなど、メリハリをつけながら、興味を持って取り組めるよう心掛けています。

患者さんに関わる上では、相手のことを知るだけでなく、自分自身を知ることが重要だと考えてい

ます。私自身、学生時代のゼミ合宿で、自己理解を深めることを目的に、仲間とさまざまなワークを行った経験があります。当時は、失恋をしたばかりで心境としてワークどころではなかったのですが、そんな気持ちを仲間が受け止めてくれたことで、「受容」「共感的理解」の大切さを学びました。大学院でもさまざまなワークを行うことで自分自身の話し方や聞き方の特徴に気づくことができました。

こうした経験から、授業でも自己理解のためのワークなどを積極的に取り入れています。学生が自分の得意・不得意を理解した上で得意なことを生かし、苦手な面で困らないように具体的工夫を考えいくきっかけになればと思っています。

これまでの25年間で印象的なエピソードとしてあるのは、1年生の学生が学術誌に掲載されていた「面接の仕方」をテーマとした記事を持ってきて、その内容について質問を受けたことです。参考になる内容であったため、今でも授業で活用しています。

学生からたくさんの中の刺激を受けながら日々の授業を行っています。改めて学生の皆さんに感謝しています（談）。



授業中の杉村先生



インタビュー木下教員と



## “エンターテイナー”

理学療法学科 教員

坂田 晋一



SMAPの『夜空ノムコウ』を歌った成人式から20年経ち、あの頃の未来に僕は立つことはなく、当時と同じ社医学から時代の流れを見つめています。

思い返せば成人式直後の評価実習では、後に本学で教鞭をとられた深川先生に「“歌って踊れる理学療法士”“エンターテイナー”であれ」とご指導いただきました。知識も技術も未熟な私は先生方を真似て“理学療法士”を演じていたように思います。

理学療法士としての知識・技術が成熟すると、患者さんがリハビリ前には“できなかった”ことが、リハビリ後には“できる”ようになります。病棟に帰ると他の患者さんから拍手で迎えられて笑顔が溢れ、「エンターテイナーだね」と私に言われたとき、改めて意味を理解したように思いました。

現在、プライベートでは“おもしろい夫”(写真左上)を演じていますが、仕事人としては、学生と“できない”ことが“できる”ようになる喜びを分かち合いたくて教員をしています。

教員としての私は、教育上、その時に必要な教員像を演じています。昨年の地域理学療法学の授業では、“訪問リハ職員”を演じて、研修日に担当している患者さんが私の同行のもと、寝たきりの状態から、実家の海に辿り着いた経過を伝えました。本人や家族の笑顔(写真右下)をつくる私の姿を真似て、学生が笑顔をつくる“エンターテイナー”になることを夢見ています。



教

思いつくまま

働く

紹

## アウトプットのブースター

理学療法学科 教員

福田 崇



『社医学ひろば』での教員紹介の依頼がきた。頭の中でテーマを探し始めてみるが、なかなか進まない。これでは駄目だと思い、お気に入りの万年筆でノートにまずは書きはじめてみる。3つぐらいテーマを強引に書き出してみると、自分が漠然と考えていることがカタチになった。うまく進み過ぎだ。

書く行為はアウトプットの一つだが、トントン拍子に進むことは少ない。ではなぜうまく進んだのか振り返ると、お気に入りの文具を使ったことに要因があると考えてみる。実際にノートに万年筆を走らせているとき、紙にインクがのっていくことに気分が良くなっていた。これは自分の趣味である文具が、書くというアウトプットに大変良い方向に作用しているのではないかと考えても悪くない。

よく言われるように『インプットよりアウトプット』は創造的な作業には必要だと思う。だがアウトプットは、スタートできない・進みにくいということも多い。これを打破するキッカケは自分の好きなモノ・コトだと思う。アウトプットにはブースターが必要なのである。そしてブースターはどれだけあっても良いからという大義名分を得て、今日も文具屋に何時間も立ち寄るのである。





# 懐かしい夏の風物詩



山形県の夏の風物詩の一つに花笠まつりがあります。私は大学時代に4年間山形県に住んでおり、10年以上花笠まつりに参加していました。残念ながらコロナの影響で近年は参加できていませんが、今でも花笠音頭が流れれば完璧に踊ることができます。

花笠踊りといつてもよく見かける舞踊踊りだけでなく、一回り大きな笠を使う笠回しや大きな番傘を使う番傘踊りなどいくつか種類があり、地域によって異なることをご存知でしょうか。子どもから大人まで参加する花笠まつりでは、こうした踊り方や衣装の違いを楽しむこともできます。また、沿道の人からお酒やお水をもらったり、団扇であおいもらったりするなど、踊り手と観客のやりとりの様子も微笑ましく、楽しむことができるかもしれません。まだまだコロナの余波が強く残り、制約された生活が続きます。そんな中、昨年、3年ぶりに花笠祭りが再開されました。残念ながら参加を辞退しましたが、いつか私も参加できればと思います。

皆さんの全く知らない土地でも、それぞれの地域に文化や暮らしがあり、お祭りはその土地の習慣を象徴する存在の一つだと考えられます。それらの風習を映像で見るだけでなく、実際に場の空気を体感することで、また新たな発見が得られることもあるのではないかでしょうか。

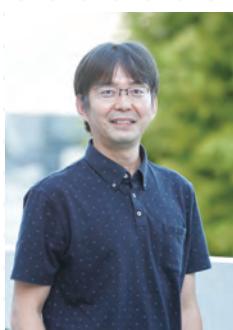


員

## ・遊ぶ・暮らす+a

介

### リアル患者体験



私はコロナ禍につまらぬことで前十字靱帯、外側半月板を損傷し、再建術を受けました。おかげさまで数週間の入院と外来でのリハビリというリアル患者体験？ができました。

術後の術創部の痛みもかなりなものでしたが、寝返りもできないため半日程度背臥位でいただけで腰背部痛が起き、24時間後に初めて端坐位を取ったときには後方へ引っ張られる感覚で立ち上がるのにも苦労しました。患者から話は聞いていましたが、実際に自分で体験してみるのとは大違いで大変勉強になりました。

コロナ禍で学内実習となった学生たちの模擬患者（リアル患者？）として体を提供できたのは不幸中の幸いでした。学生から自主トレを指導された際は「さすがに毎日やらないと！」という気持ちになりました。毎日自主トレを行った結果、急激な回復が見られ、リハビリの大切さ、そして自身で行う自主トレの大切さを痛感しました。

その後、学生たちは無事に施設での実習に移行できており、私の自主トレは再び停滞期に入りそうな勢いです。学生からの自主トレ指導を無駄にしないため、日々自主トレを頑張ろうと思います。





## クラスメートの横顔 - meet our classmates -

さまざまな年代や経歴を持つ学生が机を並べる当学院。  
そんなクラスメートの横顔を紹介します。

### 東京六大学野球で優勝を経験した斎藤さん。

理学療法士を目指したきっかけを。

—これまでの野球との関わりを教えてください。

小学生のときに軟式野球をはじめ、中学から硬式野球のチームに入りました。高校、大学で学校の硬式野球部に所属して、大学卒業後は社会人野球チームで2年間プレーしました。高校2年生までは投手として、それ以降はファーストや外野といったポジションを守っていました。

—理学療法士を目指すきっかけは何ですか。

大学時代の試合中に**左ひざの前十字靱帯を損傷して手術を受け、そこでリハビリを経験したこと**がきっかけです。そのときに、担当してくれた理学療法士の方が親身になってくださり、励ましを受けながらリハビリを行うことができました。

おかげで、リハビリの時間が苦しいものではなく、むしろ楽しい時間となり、無事に復帰することができました。卒業後、一度は一般企業に就職をしましたが、その経験が忘れられず、理学療法士を目指すことを決めました。

—社医学を選んだ理由を教えてください。

関東圏で信頼できる学校であること、費用が抑えられるなどを条件で理学療法士の養成校を探していました。調べていく中で、都内でアクセスが良く、**長い歴史を持ち、さらに学費が良心的である社医学**を見つけました。



社会人野球時代の斎藤さん



理学療法学科昼間部  
2021年度入学  
斎藤 大輝さん

意識の高い学生が集まっているというネットの口コミもあり、見つけた瞬間にここしかないと思い、すぐに受験の準備を始めました。実際に入学してみたら、想像以上でしたね(笑)。

—学んでいく中で、野球経験が役立つことはありましたか。

授業で学んだ内容を自分の中に落とし込んでいくとき、「野球ならこんな動作かな」などと、**野球の動作に置き換えて考えることが多い**です。また、野球のために行っていたトレーニングなどの知識が運動療法などの場面で少しあは生かせているのではないかと思います。

—将来、どのような理学療法士になりたいですか。

患者さんに寄り添える理学療法士になります。自分が関わることで、患者さんやその家族にとって少しでも楽しいことが増え、笑顔になれる時間が増えればいいなと考えています。

そのためには、理学療法士としての知識や技術はもちろんのこと、患者さんのことを知り、信頼関係を築くためのコミュニケーション能力も必要になると思います。一人ひとりの患者さんにとってベストの治療が行えるようになるためにも、**在学中、そして卒業後も常に向上心を持って自己研さん**に励んでいきたいと思います。



## フィットネスインストラクターとして働いてた 木原さん。作業療法士を目指したきっかけを。

### —まず、フィットネスインストラクターになつた理由をお教えください。

インストラクターになる前は不動産関連の会社員でした。運動不足の解消を図るためにフィットネスクラブに入会しました。そのクラブのロッカールームで、それまで興味のなかったエアロビクスについて楽しいという周囲の声を多く聞き、やり始めたら予想以上にどハマリ！。仕事にしたいと思い会社をやめ、エアロビクスの指導をはじめました。それからヨガや高齢者体操など幅を広げて、フリーランスのフィットネスインストラクターとして働きだしました。

### —その後、作業療法士を志したのは？

発達障害への理解を深めたいという思いがあり、放課後等デイサービス（障害のある就学児童向け福祉サービス）のボランティアとして、子どもたちの遊びや体操指導をお手伝いする機会がありました。そのときうまく指導することができず、どう伝えたらいよいのか、その方法を知りたいと思ったことが作業療法士を目指したきっかけです。

作業療法士になりたいと父に相談したら、実はいとこ夫婦が作業療法士であることが分かりました。その縁で、作業療法士が働いている発達障害児の施設を探してもらい、直接お話を伺う機会



作業療法学科夜間部  
2022年度入学  
木原 恵さん

を得ました。仕事だけでなく、**学校選びの相談にも乗っていただき、社医学を勧められ入学することになりました。**とても感謝しています。

### —入学前に心配されたことはありますか。

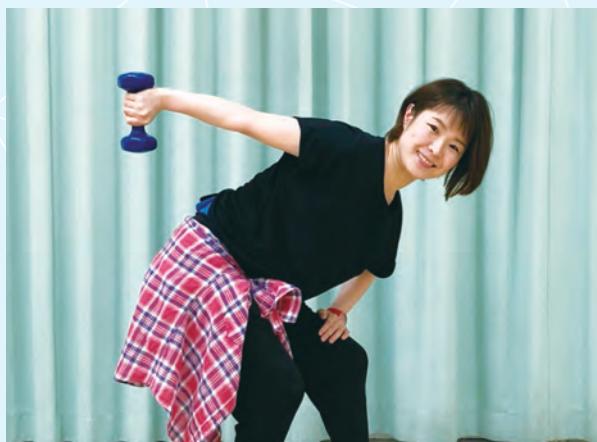
生活面では特になかったのですが、勉強面はついていいけるのかという不安はありました。それよりも大きかったのは、**夫を説得できなかつたらどうしよう**という心配でした。

願書を出すまで夫を説得した期間は、自分が作業療法士になることを見つめ直した重要な時間になりました。「なつたらこうしたい」という思いを改めて口に出すことで、意志がより強くなった気がします。同時に、夫に協力してもらうには、応援したいと思ってもらえるよう頑張っている姿を見せなければと思いました。

### —将来、どのような作業療法士になりたいですか。

作業療法士の働く場所は、身体障害、精神障害、老年期障害、発達障害の4領域に分けられます。

入学のきっかけが発達障害児との関わりだったので、はじめは発達障害領域が志望でした。しかし、学校の見学実習を経てどの領域も興味深く、今は決まっていません。でも、将来は地域の健康事業に関わって**街を元気にする、街のお困りごとを「作業」で解決するような仕事がしたい**と思っています。



フィットネスインストラクターのときの木原さん

# shigaku



広報誌「社医学ひろば」 2023年 No.5

発 行 学校法人 日本リハビリテーション学舎  
東京都小金井市中町2丁目22番32号

TEL 042-384-1030

FAX 042-385-0118

HP <https://www.sigg.ac.jp/>

発行人 山田千鶴子

発行日 2023年4月

